

# 新高校一年生に読んでほしい！この一冊 ①

読書コンシェルジュが、新たな生活に踏み出す新・高校一年生にオススメの一冊を紹介します。



不思議な力をもった「ぼく」と、頭が良くて正しいふみちゃん。ふみちゃんは、学校で飼っているうさぎを殺され、心を閉ざしてしまふ。そんなふみちゃんを救うため、ぼくは動き出す。なぜ、殺人より動物を殺す方が罪が軽いのか？なぜ、自殺をしてはいけないのか？ぼくが「正しさ」と向き合う姿は、新しい場所で学んでいく新高校一年生の皆さんに、良いヒントをくれると思います！

『ぼくのメジャースプーン』（辻村深月／著 講談社）  
講談社文庫

麦本三歩が当たり前の日常を過ごす姿を、第三者の視点から見ているような感覚になる小説です。何気ない日々を楽しく過ごす三歩に、きっと惹かれていくはず。私はこの本を読んで、つまらなく思える日々でも前向きに明るく生きることを学びました！

『麦本三歩の好きなもの』（住野よる／著 幻冬舎）



有名な人物の歌が一つ一つ、ドラマのように紹介されていて楽しめます。歌の中には、皆さんが共感できるものが必ず見つかるはずです。

私は、第40番・平兼盛の歌に一番共感できます♪

『眠れないほどおもしろい百人一首』（板野博行／著 三笠書房）王様文庫



一気に読み必至！！休校期間中、何気なく手に取った『十二国記』に心を揺さぶられました！！物語のおもしろさはもちろん、生き方のヒントをくれる作品です。一年生の時、文理選択ですごく悩んだので、ぜひ一年生に読んでほしいです！！



『十二国記』（小野不由美／著 新潮社）  
新潮文庫



主人公がみんな高校生なので、スッと物語の世界に入ることができます。五人の人物とその心情、心理描写が圧倒的で、高校生特有の揺れ動く気持ちが伝わってきます。外面と内面で全く異なった考え方をする人や、裏表のない人。様々な人が集まる“学校”で、新たな一歩を踏み出す皆さんにオススメです！

『か「く」「し」「ご」と「』』（住野よる／著 新潮社）  
新潮文庫

## 新高校一年生に読んでほしい！この一冊 ②

読書コンシェルジュが、新たな生活に踏み出す新・高校一年生にオススメの一冊を紹介します。



『教科書よりやさしい日本史』  
(石川晶康／著 旺文社)

日本史を学ぶに当たって、「どの時代」に「何が  
あったか」を、資料や図で分かりやすく解説して  
います。  
タイトルにあるとおり、実際の教科書より簡単！  
日本史が苦手な人、復習したいと思う人にピッ  
タリな一冊です。



『ポイズンドクター・ホーリーマザー』  
(湊かなえ／著 光文社) 光文社文庫

わがままでコミュニケーションが苦手、  
しかし超人的な頭脳を持ち、膨大な知識  
量を誇る天才女医が、大柄なのに「小鳥  
先生」と呼ばれている主人公とともに、  
事件の裏に隠された大きな病を暴いてい  
く、何度呼んでも飽きのこないお話です。  
近年、医療系の職業の人気の高まってい  
ます。ぜひこの機会に読んで、興味を深  
めてみてください！

「正直、親ってダルくない？」反抗期を迎  
えた人だからこそ共感できる「ポイズン  
ドクター」と、その裏側を描く「ホーリー  
マザー」。一見、「毒親」に苦しむ娘が奮  
闘する話に思えますが…。  
見方も味方も交差する、親と子の思い違い、  
自分と友の思い違いの数々。親の心子しら  
ずなティーンズ必読！

『天久鷹央の推理カルテ』  
(知念実希人／著 新潮社)  
新潮文庫nex



高校生の恋愛が描かれたこの作品、曲も出  
ているので、読書の後に曲を聴いて、二度  
楽しめる本になっています。また、高校生  
活への理想が広がり、高校生＝楽しそうと  
いう印象が強くなって、不安より楽しみ  
の方が大きくなるはず。  
勉強は大変ですが、悔いのないよう、充実  
した高校生活を過ごしてください！



『告白予行演習 ヤキモチの答え』  
(藤谷燈子／著 KADOKAWA)  
角川ビーンズ文庫



『パラレルワールド・ラブストーリー』  
(東野圭吾／著 講談社)  
講談社文庫

「何が真実で、何が偽物なのか。」  
この作品は、二つの世界を行き来しますが、最終的には  
一つにつながっていきます。新しく高校生になる人にこ  
そ、家族や友人関係、そして自分の存在さえ嘘か本当か  
分からない世界を体験してほしい。自分にとって本当に  
大切な存在が、きっと見つかるはず。

# 新高校一年生に読んでほしい！この一冊 ③

読書コンシェルジュが、新たな生活に踏み出す新・高校一年生にオススメの一冊を紹介します。



心臓外科医として過酷な勤務をこなしながら、技術や知識の習得に励んでいた主人公。とある事情から夢を諦めることになるが、自分の行動や考え方が、違う形で人を救う力になると知り、志を変えることなく新たな旅立ちを迎える。主人公の成長物語、将来に悩む皆さんにおすすめしたいです。

『ひとつむぎの手』  
(知念実希人／著 新潮社)

「お金」は、本当に一番大切なのでしょうか。三億円手に入ったら、絶対に人生は幸せなのでしょうか。高校入学の時、友達を作ること必死になって、本当に重要なことを忘れないでほしい。「自分だったら」と重ねながら、私も本当に大切なことを考えられたので、この本を読んで心の整理をしてみてください。



『億男』  
(川村元気／著 マガジンハウス)



みなさんは雨が好きですか？私は嫌いです。雨が降ると落ち込んだ気分になるから。でも、この本を読んで「雨」の印象が変わりました。世界で一番美しい雨を見せてもらいました。ハンカチの用意だけは忘れずに。私は大号泣してしまいました。切ないけれど感動のこの本、ぜひ読んでみてください！

『この恋は世界でいちばん美しい雨』  
(宇山佳佑／著 集英社)

この一冊があれば、手軽に澁澤作品に入門できます。約百篇のエッセイを抜粋で紹介。ペラッとページをめくれば、そこは澁澤ワールド。

おすすめは、「都心ノ病院ニテ幻覚ヲ見タルコト」。最後のエッセイで、闘病記かと思ったらそんなことはない。死に際までいつも通りで、「え？このまま死ぬの？」と困惑がすごい。とりあえず読んでみてください。



『澁澤龍彦玉手匣』  
(澁澤龍彦／著、東雅夫／編 河出書房新社)  
※版元品切中

※県内公共図書館 未所蔵です。  
『澁澤龍彦全集』『澁澤龍彦コレクション』(共に河出書房新社)など、様々な本が出版されていますので、ぜひ探してみてください。